

初版：2024 年 4 月 1 日

村瀬石灰工業株式会社

建材事業部

MK プラスタープラス

施工要領書

■古壁（既存しっくい壁など）下地の場合

[使用材料]

- ・MKプラスタープラス
- ・仕上げ材（漆喰など）
- ・アク・シミ止めシーラー（アクが特にひどい場合に使用します）

[施工手順]

① 下地の確認

- ・既存古壁に十分な付着強度があること、剥がれ、浮きのないこと、カビ、漏水によるシミのないことを確認してください。
- ・古壁が木粉を含む場合、アルカリ系の上塗り材を施工すると木粉がアルカリと反応して赤味が出てくる恐れがあるのでアク・シミ止めシーラーを塗布した後MKプラスタープラスを施工してください。
- ・表面についた埃、軽度の汚れはハケやブラシなどで落としてください。
- ・劣化、汚れが著しい古壁の場合はスクレーパー等で古壁を除去してください。

②下地処理

- ・MKプラスタープラスを1mm以上の塗厚で全面に塗り付け仕上げてください。
- ・クラックが発生している場合は全面に寒冷紗を伏せこんでください。
- ・目立ったクラックが発生していない場合でも将来的なクラック防止のために寒冷紗の伏せ込みを推奨します。
- ・アク・シミがひどい場合はMKプラスタープラスでもアク・シミが止まらない可能性がありますので市販のアク・シミ止めシーラーを塗布後、乾燥してからMKプラスタープラスを1mm以上の塗厚で施工してください。
- ・MKプラスタープラス施工後、アク・シミが出てきてしまった場合はアク・シミ止めシーラーを塗布後、もう一度MKプラスタープラスを施工してください。

③上塗り施工

MKプラスタープラスが完全乾燥後、しっくいなどの任意の上塗り材を施工要領に則って施工してください。MKプラスタープラス施工後、中一日置いたほうが吸水は良くなります。

■ビニルクロス下地の場合

[使用材料]

- ・MKプラスタープラス
- ・仕上げ材（漆喰など）
- ・アク・シミ止めシーラー（アクが特にひどい場合に使用します）

[施工手順]

①下地の状態確認の実施。

- ・塗り壁で改修できるクロスは水を通さないクロスに限りです。クロスの種類を確認してください。
- ・紙クロスのような吸水性のクロスに施工するとクロスの糊が溶けクロスから剥離する可能性が高いので施工できません。
- ・布クロスの場合は刺しゅう部分が浮き、接着不良を起こす可能性が高いので施工を避けてください。
- ・はっ水加工がされているクロスには塗材が付着しないので施工できません。
- ・クロスが汚れている場合は中性洗剤で拭き清掃を行ってください。
- ・カビが発生していないか確認してください。カビが生えている場所に関しては石膏ボードまでカビている可能性が高いので、そのような場合は石膏ボードの張替えを推奨します。
- ・可塑剤が抜けてパリパリになっていないか確認してください。クロスの素材自体の劣化が激しい場合にはボードごと張替えを推奨します。

②下地処理の前の実施事項

- ・クロス面に付いた埃は刷毛やブラシで落としてください。汚れがある場合は中性洗剤で拭き掃除を行ってください。
- ・クロスの浮き・剥がれのある箇所はカッターで除去し、補強のためジョイントテープを貼ります。ジョイントテープは幅 50mm のものが一般的ですが、面拘束力が大きくなる幅 100mm や幅 150mm の幅広タイプを推奨します。さらに補強のためステープル留めを推奨します（ステープルはステンレス製、亜鉛メッキ製を使用してください）。
- ・クロスの継ぎ目へも、補強のためジョイントテープを貼る、ステープル留めなどをしてください。この際のステープル留めは 100mm ピッチを推奨します。

③下地処理

- ・MKプラスタープラスを 1mm 以上の塗厚で全面に塗り付け仕上げてください。
- ・クロスのエンボス（凹凸）が大きい場合には 1 度MKプラスタープラスを下ごすりした後、乾燥させてからMKプラスタープラスを塗り付け平滑に仕上げてください。
- ・アク・シミがひどい場合はMKプラスタープラスでもアク・シミが止まらない可能性がありますので市販のアク・シミ止めシーラーを塗布後、乾燥してからMKプラスタープラスを 1mm 以上の塗厚で施工してください。

・MKプラスタープラス施工後、アク・シミが出てきてしまった場合はアク・シミ止めシーラーを塗布後、もう一度MKプラスタープラスを施工してください。

④上塗り施工

MKプラスタープラスが完全乾燥後、しっくいなどの任意の上塗り材を施工要領に則って施工してください。MKプラスタープラス施工後、中一日置いたほうが吸水は良くなります。

■その他注意事項

- ・練り水は、清水を用いてください。
- ・施工後、気温 5℃以下になる恐れがある場合は施工を避けてください。
- ・直射日光の当たる場所、湿気の高いところでの保管は避けてください。
- ・可使時間（60 分間 20℃）を過ぎてから水を加えて練り返すと強度低下の原因になります。
- ・取り扱いの際は適切な保護具を着用してください。